

今後の取組の基本方針について（案）

<基本的な考え方>

■ 地域と調和した持続可能なエネルギーの活用

- ・大規模な発電施設（太陽光、風力等）の建設に伴い、地域住民による反対運動が増加しており、新エネルギーのさらなる導入を図るためには、地域の自然環境や生活環境と調和した事業を進めていく必要がある。
- ・また、新エネルギーの導入が、地域課題の解決（災害時のレジリエンス強化など）につながることで、より地域と調和した事業になると考えられる。
- ・国においては、地域と共生している再エネ事業を積極的に評価する仕組みとして、FIT制度に「地域活用要件」が設定されたところ。

■ エネルギーの地産地消の推進

- ・中山間地域などでは、系統の制約を受ける地域が多く、系統負荷の軽減に資する自家消費や地域消費といったエネルギーの地産地消を進めていく必要がある。
- ・また、地域の資源を有効活用することで地域内で経済が循環し、地域の活性化にもつながると考えられる。
- ・国においては、災害時のレジリエンス強化などの観点から、分散型電源を利用して、地域内で運用していく仕組みとして、「配電事業者」の位置付けや、山間部等での配電網の独立運用を可能にするよう法律を改正したところ。

■ 地球温暖化対策への貢献

- ・二酸化炭素の排出量が少ない新エネルギーの導入促進を図ることで、地球温暖化対策に寄与する。
- ・高知県地球温暖化対策実行計画と連携して施策を推進する。

基本方針① 地域と調和した新エネルギーの導入促進

基本方針② 新エネルギーの地産地消の推進